

ふるさと講座・歴史系「歴史の道を歩く」第2回目

明治・大正・昭和、別海町の開拓を支えた交通の要衝

国史跡 旧奥行臼駅通所

- 日時 平成25年6月22日（土）
午前10時～12時
- 場所 国史跡 旧奥行臼駅通所
郷土資料館（集合・解散）
- 講師 別海町郷土資料館
主査 戸田 博史
- 内容 道内で現存する数少ない駅通所
の中で、当時の景観も含め良好
な状態で保存されている旧奥行
臼駅通所を訪ねたいと思います。
- 定員 20名（電話・FAX・メールに
て氏名・電話番号を6月21日
（金）までにご連絡ください。）



国史跡 旧奥行臼駅通所

●奥行地区文化財の見所

奥行臼駅通所は、明治43年に別海村奥行臼に設置されました。駅通所とは入植者や旅人に人馬と宿を提供した施設のことです。奥行臼駅通所は根室と別海の海岸部・内陸部をそれぞれ結ぶ交通の要衝として重要な役割を果たしました。

奥行臼駅通所は昭和5年に廃止されましたが、引き続き旅館として使われ、駅通時代よりも賑わいを見せたと伝えられています。駅通時代に使われていた調度品類が数多く残り、厩舎や広大な放牧地、さらに道路跡も残っており、駅通所当時の景観が良好な状態で保存されています。平成6年に道の有形文化財に、平成23年には国の史跡に指定されています。

また周囲には、旧国鉄奥行臼駅の駅舎やホーム、旧村営軌道風蓮線の車両などが町指定文化財として保存されており、3つの異なる時代の交通遺産が見られる大変貴重な地区になっています。



町指定文化財 奥行臼駅



町指定文化財

旧別海村営軌道風蓮線奥行臼停留所

出前講座(上西春別小学校) 「大昔のべつかい」お話と勾玉づくり

5月14日(火)上西春別小学校6年生の社会科授業の出前講座を行いました。

6年生は縄文時代以降の勉強をしています。今回の出前講座では、「別海町にはいつ頃人が住み始めたのか?」、「町内にはどんな時代の遺跡があるのか?」というお話をしました。

西春別で発見されている遺跡や遺物は、縄文時代前期の土器や晩期の人骨2体があります。「え～本当?」という声がり、大昔の様子が身近に感じられたと思います。持参した土器や石器にも興味津々でした。

お話の後は、「勾玉づくり」に挑戦しました。滑石という軟らかい石を使い紙やすりで削り削り、思い思いのこもった勾玉が完成しました。

当館では限られたメニューではありますが、出前講座の他、来館での講座・体験学習も行っていますので、たくさんの皆さんにご活用いただきたいと思います。

詳しくはこちらから! <http://betsukai.jp/blog/0001/index.php?ID=3284>

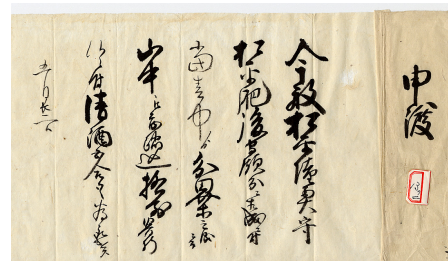


只今準備中! 特別展「会津藩領になった別海」

只今放送中のNHK大河ドラマ「八重の桜」をご覧になっている方は、多いかと思えます。幕末の会津藩を中心とした内容で、毎週ハラハラ、ドキドキの展開ですね。

文久2年(1862)に藩主松平容保は京都守護職を命じられ、波乱に満ちた道を歩んで行きます。

その3年前の安政6年(1859)、会津藩は蝦夷地の警備・開拓を命じられニシベツ(現本別海)から北の標津・斜里・紋別を領地として与えられます。翌年に引渡し、ヲムシャなどが行われ標津に元陣屋を建設することになります。この時、藩士のお世話などをした人物が加賀伝蔵であります。加賀家文書資料には、蝦夷地会津藩関係資料や常駐した藩士からもらったと思われる資料が残されています。今年度の特別展は、そうした様子を紹介したいと思います。同じく会津藩領になった標津町や中標津町の博物館施設と協力・連携し実施する予定ですのでお楽しみに。



会津藩に引渡す申渡書の写し

別海町郷土資料館だより No.167

発行日 平成25年6月1日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記

先月、一般訪問団として国後島に行く機会を与えられました。野付半島から最短で16キロという近さをいつもまじかに見ていたので、島に渡れるとは夢のようでした。自然が豊かに残るイメージが強かったせいか、古釜布に上陸して、ごみだらけの市街地にがっかりしました。(K.I)